



2013年7月4日

独立行政法人国立がん研究センター

独立行政法人産業総合研究所創薬分子プロファイリング研究センター

## 国立がん研究センターと産業技術総合研究所創薬分子プロファイリング研究センターが創薬研究連携契約を締結

—がん関連創薬研究成果の応用により、診断・治療方法の実用化を推進—

独立行政法人国立がん研究センター（理事長：堀田 知光、東京都中央区）と独立行政法人産業技術総合研究所創薬分子プロファイリング研究センター（理事長：中鉢良治、センター長：夏目 徹、東京都江東区、以下「産総研 molprof」）は、このたび新たに創薬研究に関する連携契約を締結いたしました。この連携契約は、がん関連創薬研究における相互の協力の一層の充実を図るとともに、その研究成果の応用により、がん領域の診断・治療方法の実用化に資することを目的としています。

本契約により提携関係を構築することによって、次に示す連携協力を推進します。

### 【創薬研究】

- 1.がん基礎研究部門から生まれた新規標的シーズに対する創薬開発  
(インシリコ分子設計、分子プロファイリングによる標的至適化)
- 2.迅速な臨床試験への導入に向けた新規開発化合物の検討  
(分子プロファイリングによる対象がん種の層別化)
- 3.既存薬物の最適化に関する研究  
(インシリコ分子設計)

### 【分子プロファイリング・医療機器新技術開発】

4. タンパクアレイ技術を用いた網羅的なタンパク修飾研究基盤構築
5. バイオバンク試料を用いたオミックスデータ情報解析による新規シーズの探索

国立がん研究センターは 1962 年に開設され、日本におけるがん治療および研究をリードする医療機関であり、創薬に繋がる基礎研究と早期・探索臨床拠点を含めた臨床開発の高度な能力を有しています。一方、産総研 molprof は、新薬開発のボトルネックとなっている、分子プロファイリングと新薬候補化合物の最適化技術基盤開発・実用化をすることにより、創薬力の活性化を目指します。国立がん研究センターと産総研 molprof はこれまでも個別のテーマを通じて共同研究を進めてまいりました。今回の合意により、さらに緊密な関係が構築され、共同研究がより一層推進されていくことが期待されます。両者の高い研究能力を通じて、有望な抗がん剤の研究が大きく前進することを確信しています。

### ■独立行政法人国立がん研究センター概要

設立：1962 年

「がんの解明と発症予防」「高度先駆的医療の開発」「標準医療の普及」「政策への提言」などを使命とし、設立以来 50 年“がん”の研究・診療を行う。国内のがん研究のリーダーとしてがんの原因や仕組みを明らかにし、豊富ながん研究基盤と臨床経験を活かし、高度先駆的な次世代の治療開発に力をそそぐとともに、早期・探索臨床拠点としての役割も担っている。

### ■独立行政法人産業技術総合研究所創薬分子プロファイリング研究センター概要

設立：2013 年

分子プロファイリングにより薬効・副作用メカニズム解明と化合物ターゲット決定、さらに論理的化合物分子設計に関する基盤技術を開発・実用化することにより、新薬候補化合物のみならず、現在治療に使われている上市薬及び企業開発ドロップ化合物をも体系的にプロファイリングし、日本の創薬力を短期的かつ効果的に活性化させることを目指している。

国立がん研究センターや大学病院などの病院、大学の薬学部／医学部、国立の研究機関、製薬や機器開発などの民間企業等と提携して、臨床データの共有、基盤技術開発、化合物の提供や検証、機器開発を行う。

本件に関するお問い合わせ

独立行政法人国立がん研究センター  
広報企画室

TEL：03-3542-2511（代表）

FAX：03-3542-2545

e-mail：ncc-admin@ncc.go.jp

独立行政法人産業技術総合研究所  
創薬分子プロファイリング研究センター

TEL：03-3599-8100

FAX：03-5530-2064

e-mail：molprof-contact-ml@aist.go.jp